～つながる県南　広がる実践　すべては子どもたちのため～

県南教育事務所
教育情報

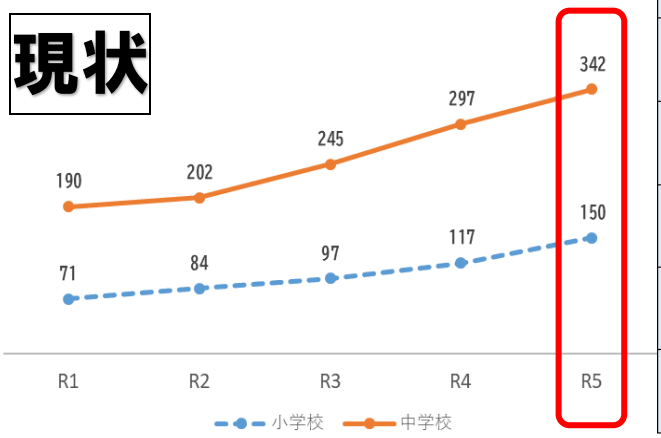
南 nanpu 風

令和６年８月 22 日（木）
No. ３【 通巻 第 224 号 】
文責 ： 教務課指導班

不登校の増加に歯止めを　－現状と対応のポイント－

管内の小・中学校における不登校児童生徒の割合は、下のように増加の一途を辿っています。未然防止を図り、どの児童生徒もいきいきとした学校生活を送ることができるよう、現状と対応のポイントを紹介します。

現状



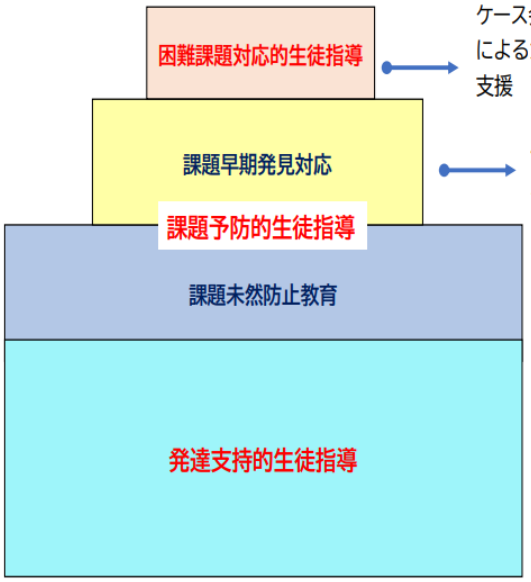
年度	小学校 出現率(人数)	中学校 出現率(人数)
R5	1.42% (150 人)	5.86% (342 人)
R4	1.06% (117 人)	4.99% (297 人)
R3	0.86% (97 人)	3.98% (245 人)
R2	0.68% (84 人)	3.12% (202 人)
R1	0.60% (71 人)	3.01% (190 人)

令和５年度の出現率及び人数は、過去最多であった令和４年度を大きく上回り、その増加の割合も高まっています。

令和６年度も、７月末現在において過去最多のペースで増加しています。この現状に歯止めをかけ、豊かな学校生活を送れるよう、２つの視点でお伝えします。

対応①　発達支持的生徒指導の視点からの学習指導を通した未然防止

不登校対応の重層的支援構造　　生徒指導提要（R4.12　文部科学省）より



- 困難課題対応的生徒指導 → ケース会議に基づく、不登校児童生徒に対する家庭訪問やSC･SSW等によるカウンセリング、及び別室登校や校外関係機関と連携した継続的支援
- 課題早期発見対応 → 休み始めの段階でのアセスメント(スクリーニング会議)と、教職員、SC、SSW、保護者の連携･協働による支援の開始
- 課題予防的生徒指導 → 児童生徒のSOSを出す力の獲得と教職員の児童生徒の変化に気付きSOSを受けとめる力の向上、及び教育相談体制の充実
- 発達支持的生徒指導 → 児童生徒にとって学校が安全･安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫

「生徒指導提要」においても、未然防止にあたり「分かりやすい授業」が求められています。授業の改善が不登校対策でもあることを念頭に、取り組みたいものです。

令和６年３月に公表された「文部科学省委託事業　不登校の要因分析に関する調査研究報告書」において、不登校児童生徒を対象に調査したところ、不登校のきっかけ要因について

「学業の不振」…47.0%　「成績の低下」…37.9%

となっていることから、「授業が分かる」ことが重要なポイントであることが言えます。

対応②　最初期対応の充実を通した未然防止

昨年度より、児童生徒の欠席に対する初期対応について大切にしてきたところです。１日目の欠席に対してどのように捉えアプローチするかで、そこからの状況は変わり得るものです。以下のとおり、初期対応のポイントを紹介します。

学校の初期対応方針の策定と共有、確実な実施と確認

初期対応の遅れから欠席状態が長期化してしまうと、学習の遅れや生活リズムの乱れ等の複数の要因が生じ、回復が困難になることも少なくありません。

たとえ風邪等による欠席だとしても、欠席１日目から「気にかけている」というメッセージを伝えるなど、速やかに具体的に動くことが大切です。学校の初期対応方針を全教職員で共有し、すぐ動くことが大事になります。

欠席最初期における重要要素

【要素１】
欠席１日目からの働きかけ

- □ **初期対応方針に沿って、その日（欠席１日目）に速やかに電話をかける、家庭訪問をする**
- □ **できる限り、児童生徒の声を聞く、顔を見る**
- □ **学校の様子や情報、心配していることを伝える**

【要素２】
保護者との連携

- □ **保護者の思いに耳を傾ける（気になること、心配なこと）**
- □ **学校と保護者との協力関係を結ぶ**
- □ **欠席の要因に応じた支援方法を、共に検討する**

【要素３】
チームによる対応

- □ **担任単独ではなく、チームで対応する**
- □ **スクリーニング会議（アセスメント）を実施する**
- □ **いつ、誰が、いつまでに、何を、どのように等、対応の役割を明確にする**

【要素４】
受入体制の整備

- □ **教育相談体制を整える**
- □ **学習環境（対応場所・指導体制等）を整える**
- □ **欠席の要因に応じた具体策を実行する**
- □ **居心地の良い学級経営に係る体制作りをする**

上記のような点を、校内で確実に共有し、確実に日々実施していくことが重要になります。中でも、【要素１】における欠席１日目からのアプローチは、最初期対応の要でもあります。本人や保護者の声を聴き、様子をうかがい、共に在るということを感じてもらうことが、登校への最初にして最大の支援と言えるかもしれません。

欠席状況を職員皆で共有すること、そして声を掛け合いながら初期対応方針の『確実な実施そのもの』も共有していくことが大切です。

（参考として、生徒指導提要　P.221～をぜひ参照ください。）